

地理学科学生取材 めぬま 観光読本。

温かい人と美味しいものに出会える町
熊谷市妻沼の素敵な楽しみ方



企画制作：立正大学 地理学科「町なかゼミ」
協力：めぬま商人会・くまがや市商工会

学ぶ。 妻沼を歩き、風土を知る

埼玉県北部に位置する熊谷市妻沼は、妻沼聖天山(しょうでんざん)の門前町。ここでは、昼の休憩を挟んだ約4時間で町なかを巡るコースを紹介します。



熊谷駅北口から妻沼聖天前行き(太田行き・西小泉行きも可)の路線バスに乗ると、県道太田熊谷線沿いに設置された妻沼下町バス停①に着く。目の前に坂田医院旧診療所②と井田記念館②がある。旧診療所は昭和初期(1931年)に建てられ、市街地南部のシンボルの存在である。東に向かうと旧東武熊谷線妻沼駅跡③がある。

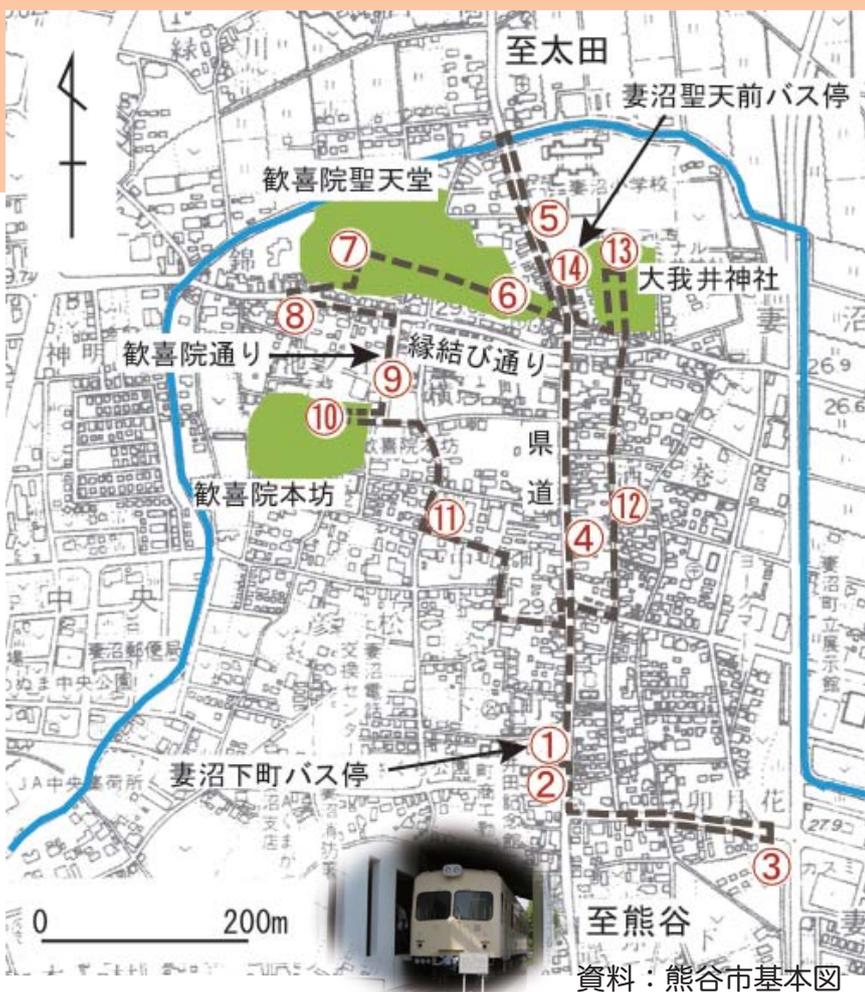


昭和期の雰囲気や色とりどりの絵看板④を見ながら、県道を北に進む。妻沼小学校正門前⑤を過ぎて水路(芝川)に出る。ここが市街地の北端である。

途中、妻沼聖天山(1179年創建)の参道入口には石柱が立ち、門前らしい雰囲気を見せている。この先には国指定重要文化財の貴惣門(1851年竣工)⑥がある。さらに参道を進み、中門・仁王門をくぐる。正面に見えてくるのが歓喜院聖天堂⑦である。この建物は江戸時代中期に再建されたもので、2012年に国宝に指定されている。妻沼聖天山の境内は、春は桜、夏は緑、秋には紅葉が美しい。

聖天山境内南側の通称・緑結び通り沿い、西の参道入口あたりに、古民家を改修して営業を始めた店舗がある。「大福茶屋さわた」⑧は米穀店の空店舗を菓子販売所兼休憩所に改装したものである。このほか、古民家風の茶販売店や喫茶店もあり、門前町らしい雰囲気を感じさせてくれる。

緑結び通りから南に伸びる歓喜院通りに入る。この通りは聖天山と歓喜院本坊を結び通りで、並木の緑の中に赤い灯笼⑨が映える。通りの先に、歓喜院本坊⑩がある。緑地の少ない市街地のなかで、緑濃い場所となっている。



資料：熊谷市基本図

さらに南に向かい、県道裏の町並みを探索する。しばらく進むと越屋根(採光・換気のための小屋根を載せた屋根)を持つ民家⑪が見えてくる。民家の角を左に曲がり路地に入る。住宅地が続くが喫茶店や雑貨店も見られる。続いて、県道を渡り東側の路地に入る。県道に並行するこの道路沿いの辻角に、地蔵が祀られた場所がある。その先に江戸時代の儒学者・寺門静軒が開いた両宜塾の跡を示す石碑⑫が建っている。日本の女医第1号の荻野吟子もここで学んでいる

そのまま北に進むと大我井神社⑬に突き当たる。小学校の敷地を含むこの一帯はかつて大我井の森と呼ばれており、社殿裏側の杉林が当時の様子を偲ばせている。帰りは、妻沼聖天前バス停⑭から熊谷駅行きバスに乗るとよい。



見る。 妻沼の見どころを訪ねる

妻沼は歴史のある町。聖天山をはじめ周辺にはたくさんの観光資源があります。町なかを歩き、自分だけの隠れた資源を探してみてください。



妻沼聖天山歎喜院聖天堂⑦

日本三大聖天の一つである妻沼聖天山は、齋藤別当実盛により1179年に創建された。聖天山は縁結びの神様として古くから信仰を集め、商売繁盛や交通安全などのあらゆる良縁を結んでもらおうと、足を運ぶ人が後を断たない。本殿の歎喜院聖天堂は火事などの被害で数度にわたり再建され、その度に妻沼を中心とした庶民が工事費を寄進した。平成の大修理では、国・県・市からの補助に加え、多くの人から寄付が寄せられた。信仰の背景や彫刻技術の高さが評価され、2012年に国宝に指定された。



貴惣門⑥

聖天山第一の門である貴惣門（1851年竣工）は、妻側に三つの破風を有する全国でも珍しい山門。門の右側に多聞天、左側に持国天の像が安置されている。



歎喜院本坊⑩

歎喜院本坊は、齋藤別当実盛の次男の実長により聖天堂の別当坊として開創されたもの。



坂田医院旧診療所②

坂田医院旧診療所は1931年に建てられ、1980年頃まで使用されていた。鉄筋コンクリート造で正面はスクラッチタイル貼の国登録有形文化財。映画やドラマのロケに使われている。



井田記念館②

坂田医院に隣接する井田記念館は、かつて男性用整髪料「メヌマポマード」を創製し、妻沼の名を国内外に広く知らしめた実業家・井田友平氏の居宅を移築した建物。



町なかの絵看板④

妻沼の特徴をテーマに、町の人たちが手作りしたユニークな絵看板が町なかに点在している。特に県道（太田熊谷線）沿いには多く展示してあるので、見つけて歩くのもおもしろい。



縁結び通り沿いの店舗⑧

聖天山の南側を通る通称・縁結び通り沿いには「茶の西田園」や「大福茶屋さわた」など休憩するにはぴったりのお店が並んでいる。無料休憩所の「めぬま館」もあるので、是非ふらっと歩いてほしい。



歎喜院通りの赤い灯籠⑨

聖天山を訪れた多くの観光客が通る歎喜院通りは、聖天様の本殿から歎喜院本坊へ通じる道。そこには多くの赤い灯籠が並び、歩く人の目を引いている。



大我井神社⑬

明治政府の神仏判然令により聖天山から分離した神社。聖天山の参道から一本道で繋がりと、境内に富士浅間神社（富士塚）がある。夏には火難等の厄除けを願う火祭りが行われる。

食べる。 美味しいものがいっぱい、妻沼を味わう

妻沼には飲食店や菓子店が多く、食べ歩きの楽しみがあります。
作り手の思いを知れば、もっと美味しくいただけます。

人と人、人と地域をつなぐ菓子



さわた本店：沢田真弘さん

菓子の製造販売は祖父の代から90年続いていて、物心ついた時から継ぐものだと思っていた。新しいものを作ることに忙しさとやりがいを感じる。菓子作りは人を喜ばす仕事。来てもらった人に、妻沼=この菓子となるような菓子を考えている。「さわたなら何か楽しいことをやっている」と言われるために、積極的に地区のお祭りに参加している。

妻沼にはご縁がある。聖天山とのご縁、人と人のご縁、菓子作りを通じてのご縁もある。いろいろなご縁を通じて人や地域が繋がっている。若者にも四季の行事を大切にしてもらいたい。そのために、菓子からお中元や十五夜を学んでもらいたい。

学生 (SK) : アイデアいっぱいの沢田社長。若い世代の意見を知り、新商品の参考に。茶豆饅頭はいかがでしょうか？

妻沼で「雪くま」にこだわる



茶の西田園：小林伸光さん

妻沼でお茶屋を継いで20年、当時はお茶屋も問屋も廃れていた。10年近く前から町おこしを考えていたが、聖天様が国宝に指定されてからは形になってきたという。

4年前に「雪くま」の販売を始めたのは、熊谷の記録的な暑さもあり「雪くま」の人气が急上昇してきたことがある。本業がお茶屋なので、お茶にこだわったかき氷を提供している。そのため、お茶のシロップは作り置きはせずに毎朝仕込んでいるという。また、氷のかき方も熊谷市仲町にある人気店「慈げん」の社長さんに教えてもらったとのこと。

毎年目標を決め少しずつ改良していくことで、口コミや雑誌の取材などの影響もあり、年々お客も増えている。現在は、お茶や「雪くま」を活用したまちづくりを考えている。若い世代の率直な意見が欲しいとのことでした。

学生 (YA) : いつも気さくにお話して下さる小林さん。「雪くま」と、妻沼の町おこしへの熱意が伝わってきます。フワフワの「雪くま」は、他では味わえない逸品です！

地元産の妻沼茶豆で五家宝をこさえる



西倉製菓：西倉康弘さん

以前から自宅隣の工場で五家宝を製造し全国へ発送していたが、地元の人に手づくりの五家宝を食べて欲しいと思い、4年前に妻沼の市街地南部に店を開いた。現在では、少しずつであるが五家宝の良さが広まってきているという。

五家宝に使用する茶豆はコストの問題からほぼ外国産を使用していたが、妻沼で農家を営む長島清さんが在来種の茶豆の栽培をしていることを知り、その妻沼茶豆を使用しての五家宝製造を開始した。この茶豆の特徴として、きな粉にすると大変風味がよく甘いところがあるそうだ。

店は聖天山から離れた場所に立地しているため、聖天様近くで実演工房を出したいと考えている。また、若い世代の人に妻沼で店を出して欲しいと語っていた。ちなみに、西倉さん曰く、五家宝と合う飲み物は濃いめのコーヒーまたは緑茶だそうだ。

学生 (YA) : 妻沼茶豆研究会を立ち上げ、自ら地元の茶豆にこだわった生五家宝を作る西倉さん。妻沼への地元愛を大変感じるインタビューでした。ぜひ、西倉製菓の五家宝をご賞味あれ！



名物の稲荷寿司を食べ比べてみると

小林寿司・森川寿司・聖天寿し (左から)

妻沼の名物にもなっている稲荷寿司。200年以上の歴史があるという。小林寿司・森川寿司・聖天寿しでは巻き寿司とのセットで販売している。

学生 (SA・UY) : 小林寿司は箸が次々と伸びる味で、酢飯の酸味に薄い油揚げ、また濃厚なだしの味付けが後を引く。森川寿司は、だしと甘さの調和のとれた甘辛い味付けで、油揚げの厚みと、ほのかな酢飯の酸味が相乗効果を生む。聖天寿しは稲荷の大きさが目をひき、油揚げに厚みがあり、甘さを中心とした味付け。なお、「道の駅めぬま」で販売されている「吟ぎん寿し」が美味しいという地元の人もいるとか。



出会う。 妻沼が大好き、妻沼のために頑張る

妻沼の最大の資源は人。ここで紹介する人たち以外にも、妻沼には熱いハートを持った人がたくさんいます。是非、妻沼に来て温かい人たちに出会ってみてください。



妻沼有志の皆さん

妻沼有志は会員同士の仲が良く、結束が強いのが特徴。地域の様々なイベントでの活動や、震災復興支援のボランティア活動も行っている。聖天山や能護寺の紫陽花、やまと芋、ねぎ、様々なものが有名な妻沼。今後良いところを残すためにも商店街にたくさんの若者が訪れ、賑わいをもたらしてほしい。

学生 (KR) : 皆さん活気があって、ためになる楽しいお話をたくさん聞かせて頂きました。本当に元気いっぱいの方たちです。



藤川屋青春館：須藤晃治さん

妻沼は聖天様だけでなく、もっとたくさんの魅力がある町だ。そんな魅力を知ってもらいたいし、自分自身も発見していきたい。まちづくりとは、自分の街を知ることから始まる。妻沼には、まだ見つからない輝くものがたくさんあるはずだ。そんな妻沼を私は見つけ、妻沼の人たちはもちろん、観光客、さらには後世へと伝えていきたい。

学生 (YK) : 一見クールな須藤さん。話しているとハートの熱いカッコいい方でした。



くまがや市商工会：廣瀬俊明さん

人間だけでなく、自分を取り巻くもの全てを温かい眼差しで見つめることのできる、そんなやさしさあふれる町がこの妻沼。縁結びの神様である聖天様は何も男女の縁だけでない。家族との縁、他人同士との縁、仕事との縁、お金との縁…、これからも妻沼が縁に結ばれた温かく優しい町でありますようにいつも願っている、とのことでした。

学生 (YK) : いつもにこやかに対応してくれる廣瀬さん。優しい地元のお父さんといった印象でした。



めぬま館：黒澤 茂さん

妻沼に住み始めて35年。デパートで広報関係の仕事をしていたが、退職後に町おこしの実践を行いたいと思いボランティアガイドを始めた。妻沼の良さは、住民の人柄の良さと郷土愛が強いところ。もっと妻沼をPRして、様々な年代の人と交流して町おこしを盛り上げたい。

学生 (UR) : めぬま館は観光客が休めて自由に飲食もできる無料休憩所。つい長居してしまう。手づくり市などのイベント時は、黒澤さんの声がよく響きます。



縁結びのまち連絡協議会：米澤秀夫さん

かつてカメラ業界で働いていた時は、地域に何も還元できていなかった。定年後、地域に何か貢献したいと考え、複数のまちづくり組織に所属した。今は勉強させてもらっているありがたさを感じながら、自分たちの力で地域を良い方向に動かしたいと思っている。妻沼を聖天山だけでなく観光客が歩きまわれる町にしたい。

学生（SN）：勉強熱心であきらめることが嫌いな米澤さん。そんな真摯な姿勢が妻沼を動かす心強い土台となっていると感じました。

朔日市・婚活イベント：沢田三重子さん

昔は賑わっていた商店街もお店の数が減って、横の繋がりが希薄になった。そこで、失いかけた交流を増やすために、朔日市（ついたちいち）を企画した。毎回様々なことを行い、イベントを盛り上げている。10年前から聖天山の縁結びの力を借りて、出会いの場も提供している。縁結びの魅力を伝える町歩きマップがあればもっと魅力が伝わるのでは。

学生（NY）：行動力のある沢田さん。婚活イベントに私もいつかお世話になろうかな。



河内たこ焼：川端浩三さん

大阪で生まれ育ち、元々はプログラム関係のエンジニアとして働いていた。仕事の関係で妻沼にやってきたことをきっかけに、美味しいたこ焼きを食べて欲しいという思いからたこ焼き屋を始めた。「妻沼」と「めぬま」という字面が好きで、妻沼Tシャツを作った。たこ焼きを購入した際のポイントで交換できるので、みんなに着て欲しい。

学生（NS）：とてもユニークなご主人。関西弁と巧みな手首のスナップを駆使していつも美味しいたこ焼きをお客様に届けています。



妻沼縁結びキャラクター：

えんむちゃん

くまがや市商工会の方によると、えんむちゃんは06月06日（えんむえんむ）生まれの男の子らしく、聖天山境内のどこかに住んでいるとのこと。出会ったときに錫杖をシャランシャランと振ってもらおうと、良いご縁が結ばれるそうです。



集う。 イベントで妻沼を明るく元気にする

妻沼のイベントは人と人をつなぐもの。人とのつながりを求めて、毎回多くの人々がイベントに来てくれます。「またお会いしましたね」の一言がとても似合う町です。

手づくり市（年2回開催：4月・10月）



大福茶屋さわた：高柳紀子さん

店の空きスペースで始めたギャラリーで、出店者同士のふれあいが広がったこと、京都の青空市で家族同士が和気あいあいと楽しむ様子を見たことをきっかけに、第1回の手づくり市を開催しました。人と人との縁のおかげで回も重なり、情も湧いてきました。市（いち）に参加してくれる人や地域の方から頂く言葉はとても温かく、モノではない宝物がつまっています。そんな手づくり市は妻沼で暮らしている幸せを感じられるものです。

学生（SN）：「人と人との縁」を大切にする高柳さん。市（いち）に参加する人すべてに温かい気配りをしています。こうした高柳さんの人柄も手づくり市が長く続く理由です。



昭和まつり（年1回開催：5月または6月）



梅月堂：阿藤正則さん

妻沼のイメージは“昭和のレトロ感”！これをコンセプトに始まったのが「昭和まつり」だ。この祭りの発案者である梅月堂の阿藤さんは、祭りを行うことで人とのコミュニケーションの場が増えていくことや、昭和のロマンを思い出して楽しんでもらえることが嬉しいという。主催者自身が面白いと思わなければ、楽しい祭りにはできない。

学生（KR）：毎年いろいろな企画を考え、少し懐かしい昭和を思い出させてくれるユニークな祭りです。みなさんもぜひ一度訪れてみては。

「町なかゼミ」（立正大学地理学科 片柳ゼミ）メンバー

2014年度：梁瀬琴美（ゼミ長）・笹岡賢士朗（副ゼミ長）・矢作綾菜（同）・植野凌太郎・氏家優歩・大内健弘・沖山瑛二・加藤李佳・加藤竜一・佐々木碧・佐々木望美・中西惣大・永森勇希・橋本芙久子（担当教員：片柳 勉）



立正大学 熊谷キャンパス